

## 国立市

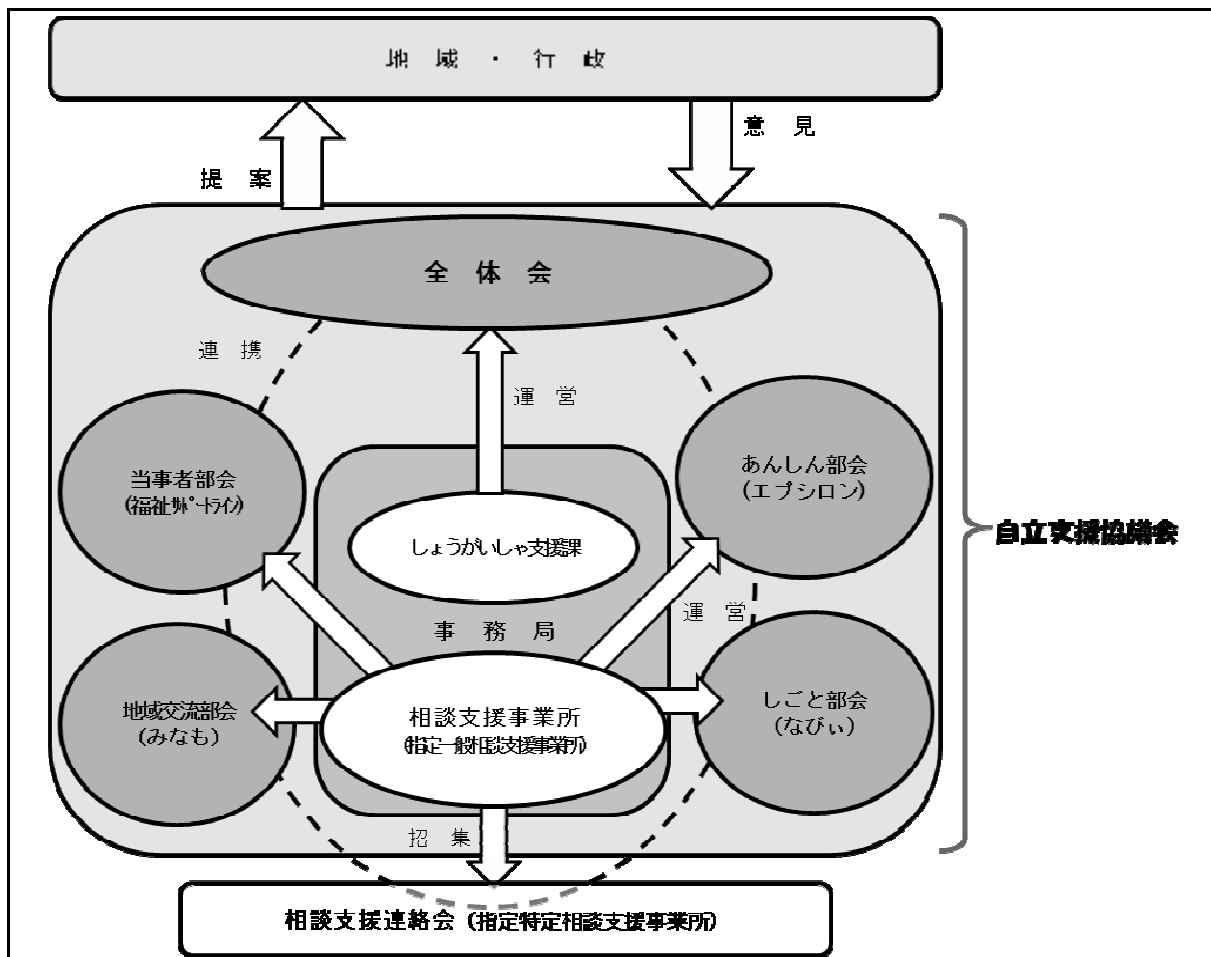
【名称】 国立市しょうがい者(児)自立支援協議会

【ホームページURL】 未開設

【設置年月】 平成25年7月

【運営方法】 直営(全体会)・委託(専門部会)

【組織図】



### 【相談支援体制の整備状況】

基幹相談支援センター数	委託相談支援事業所数	指定一般相談支援事業所数		指定特定相談支援事業所数	指定障害児相談支援事業所数
		地域移行	地域定着		
0	3	4	4	8	5

### 【地域生活支援拠点等の整備状況】

整備状況	整備時期	整備類型
検討中	未定	面的整備型

### 【日中サービス支援型共同生活援助の有無】

#### 日中サービス支援型共同生活援助の有無

開設の有無	開設時期
なし	—

【全体会及び専門部会の活動回数及び委員数】

全体会の活動回数及び委員数

全体会	
回数	委員数
1	11 ( 3 )

専門部会の活動回数及び委員数

部会名	回数	委員数
あんしん部会	6	12 ( 2 )
しごと部会	6	17 ( 2 )
地域交流部会	10	11 ( 1 )
当事者部会	6	9 ( 9 )

※「委員数」の( ): 当事者の立場で委員に就任されている方の人数(再掲)

【全体会の委員構成及び活動内容】

(1) 委員構成

種別	人数	種別	人数	種別	人数
学識経験者	1	医療関係者	1	保健所	0
教育関係機関	1	雇用関係機関	0	企業	0
障害当事者・家族・関係団体	4	身体・知的障害者相談員	0	相談支援事業者	3
障害福祉サービス等事業者	0	社会福祉協議会	1	法曹関係者	0
民生委員・児童委員	0	地域住民	0	行政職員(区市町村)	0
行政職員(都)	0	その他	0		
合計		11			

委員名簿

No.	役職	氏名	所属	種別	備考
1	会長	堀江 まゆみ	学校法人白梅学園 白梅学園大学	学識経験者	
2		新井 ゆみ	国立市医師会	医療関係者	
3		荒西 岳広	国立市教育委員会	教育関係機関	
4		松田 周平	国立市社会福祉協議会	社会福祉協議会	
5			市民代表	障害当事者・家族・関係団体	
6		千田 美穂子	市民代表	障害当事者・家族・関係団体	
7		芳賀 弘幸	市民代表	障害当事者・家族・関係団体	
8		宇賀神 佳子	国立市手をつなぐ親の会	障害当事者・家族・関係団体	
9		湯田 正樹	就労移行支援事業所ポートビズ	相談支援事業者	
10		新井 寛	福祉サポートライン・くにたち	相談支援事業者	
11		古旗 真幸	一般社団法人たまぶらねっと	相談支援事業者	

(2) 活動内容

- 各専門部会における活動報告・意見交換
- 地域課題解決における自立支援協議会の活用についての協議

## 【専門部会の委員構成及び活動内容】

### (1) 委員構成

部会 種別	あんしん部会	しごと部会	地域交流部会	当事者部会
学識経験者	0	0	0	0
医療関係者	1	0	0	0
保健所	1	0	0	0
教育関係機関	0	1	0	0
雇用関係機関	0	2	0	0
企業	0	2	0	0
障害当事者・家族・関係団体	3	4	1	7
身体・知的障害者相談員	0	0	0	0
相談支援事業者	2	2	4	2
障害福祉サービス等事業者	0	5	4	0
社会福祉協議会	1	0	1	0
法曹関係者	0	0	0	0
民生委員・児童委員	1	0	0	0
地域住民	1	0	0	0
行政職員(区市町村)	1	1	1	0
行政職員(都)	1	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	12	17	11	9

### (2) 活動内容

部会名称	活動内容
あんしん部会	ヘルプマーク、ヘルプカードの普及啓発、特に各避難所の運営訓練での啓発、活用をはたらきかけた。福祉避難所についての情報をまとめ、地震や台風などの非常時におけるクライシスプランについて協議した。
しごと部会	しごと体験の協力先を開拓し、市内の学校等でしごと部会委員関係者等が短期間のしごと体験を継続的に実施している。実習先、就労先について利用者が自信をつけていく過程として有効な活動となるよう心掛けた。
地域交流部会	しょうがいのある人となない人の出会いや多様性について考えることをテーマとして、定期的な地域交流の場を設定することを企画
当事者部会	しょうがい者理解を深めるための市職員向けの研修を企画することとし、準備を進めている。当事者による合理的配慮の研修会を、市役所新人職員を対象に、令和2年度に向けて企画。当事者だからできる講座をロールプレイを取り混ぜて実施予定

## 【地域協議会の活動状況】

### 1 協議会の協議事項(複数回答)

#### ⑤ 困難事例等の解決に向けた検討に関すること

個人の課題が地域の課題として認知されるためには、自立支援協議会の機能を強化していく必要もあるため、地域課題についての抽出の仕方について、協議を行った。

### 2 協議会としての役割(複数回答)

#### ⑦ 障害福祉計画等の進捗管理や調整

全体会及び部会で、サービス利用者・提供者の意見を聞き、活動指標の妥当性などを確認

⑧ 社会資源の開発及び改善

部会の活動は活発なので、それをさらに拡大・発展・発信する役割を全体会が担えるよう協議を継続

3-1 協議会における地域課題

あがっている

3-2 地域課題の把握方法(複数回答)

②全体会、専門部会、各種連絡会等

③個別支援会議

3-3 地域課題に対して取り組んだ、又は取り組んでいる内容(複数回答)

① 相談支援の質及び量

個別の相談事例から共通する課題を抽出し、地域の課題とし認識し、地域で解決できる仕組みづくりを構築するための相談支援について協議

② 社会資源の開発及び改善

各専門部会から上げられた課題を整理しながら、社会資源の開発や改善を図っている。

③ 権利擁護・虐待防止

権利擁護・虐待防止に関する研修の企画

④ 高齢福祉分野との連携

市内において、しょうがい者が安心、安全に生活を継続していけるよう、65歳に到達したあとも障害福祉サービスが利用できる体制づくりについて検討

⑥ 緊急・災害等対応

防災ワークショップ、ヘルプカード、福祉避難所、避難時の個別支援計画の作成について協議

⑦ 医療的ケア

他課の業務との連携で、医療的ケア児への支援、家庭・教育・福祉の連携(トライアングルプロジェクト)などの課題があがっている。今後、ケースの増加も予想されることから、地域資源の拡充を含め新たな検討事項と捉えている。

⑧ 障害児支援

児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所との連絡会については、自立支援協議体以外での会議体で協議されているところではあるが、今後の課題整理の中で障害児支援についても検討を重ねる必要がある。

4 協議会における当事者の参画状況

(当事者の委員がいる区市町村)

4-1 多様な当事者の委員(障害や難病の種別、性別、年齢等)が参加していくにあたり、取り組んでいること、課題になっていること

しょうがいのある当事者同士の相互理解についても課題となっている。当事者も自身のしょうがいについては認識があるものの、他の方のしょうがいについては表面的には理解しているが、共通の課題について協議するために相互理解を進めていきたい。

(地域協議会を設置している区市町村)

4-2 当事者の委員だけではなく、地域で生活する多様な当事者(障害や難病の種別、性別、年齢等)の声を吸いあげられる協議会にするために、取り組んでいること、課題になっていること

当事者の困りごとを地域課題として捉えなおすための、事例検討会の実施を課題としている。地域課題を自立支援協議会で解決していくという仕組み、枠組み作りについて、全体会と各専門部会が有機的に連動することが課題である。